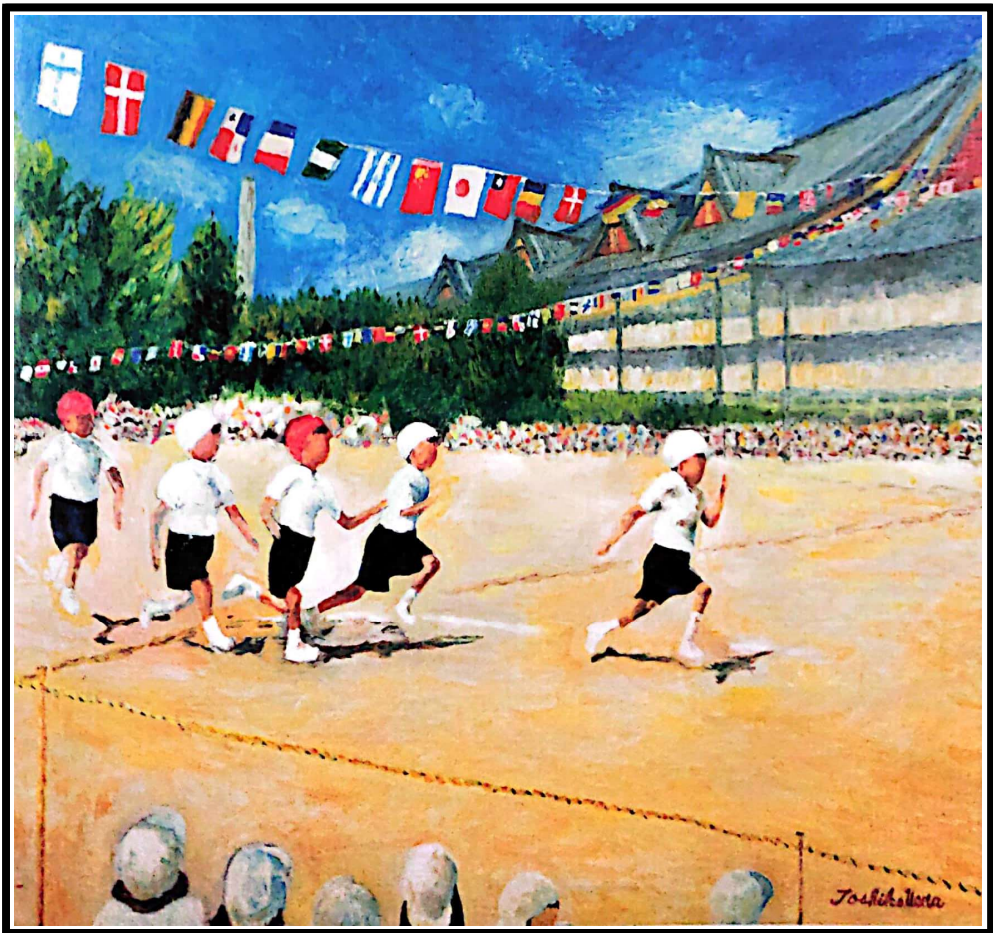


# 婦人会報

立教184年 10月

令和三年  
2021年



天理教婦人会旭日支部

通巻508号

# 「おつとめの心構え」

vol. 3

今回は「座りづとめ」  
について述べさせて  
いただきます。

よろしく  
お願いします



## ●座りづとめ

◎第一節「あしきをはろうて たすけたまへてんりわうのみこと」

通釈は、悪しきの心を払いますから身上事情をたすけたまへ、十全のご守護をお願い申し上げます天理王命様です。

このおつとめは「祈願のおつとめ」で親神様におたすけを願います。これまでの八つのほこりの心遣いをさんげし、今後入れ替えることを定めて願います。神名を唱え親神様の十全のご守護を祈念します。

◎第二節「ちよとはなし かみのいふこときいてくれ あしきのことはいはんでな

このよのぢいとてんとをかたどりて ふうふをこしらへきたるでな

これハこのよのはじめだしなむてんりわうのみこと よしよし」

通釈は、一寸これから話す神様直々の話を聞いてくれ、悪いことは言わないから、これさえ聞いて分かれば病んで身が倒れることはない。



その話というのは、この世の元初めに月様日様のご相談により、地となり天となつてのお働きにより、元初めの夫婦を拵え、それより宿し込み、産み下ろして以来、永の年限、神の守護によつて成り立ちきたこの世人間である。これはこの世元初め出しの眞実の話である。三度の初め出しのこの処がこの世の元のぢばである。お話、しかと承知致しました。天理に添いきります。最後に合掌し、なむ天理王命と唱え、その心を親神様が受け取り「よしよし」と仰せられます。

◎第三節「あしきをはろうてたすけせきこむ いちれつすまして かんろだい」

通釈は、つとめによる眞実のたすけを、神は急き込まれる。このつとめによつて世界一列の心を澄まして、ぢばにかんろだいを建て上げることを念願に、陽氣づとめの世の治まりの実現を待望されている。自らもこの思いを我が念願として教祖の道具衆として通らせて頂きます。

◎まとめ

第一節の「たすけたまへ」は祈願のおつとめ、第二節の「ちよとはなし」は元始まり人間創造のお話、

第三節の「せきこむ」は世界たすけを急き込まれる親神様の思いに沿つてしっかりとつとめさせていただきますというお誓いです。





# 栗の節句

— 心にうまい味わいを —

おやさまのおこころ

— 逸話篇より —

教祖は、ある時、増井りんに、「九月九日は、

栗の節句と言うているが、栗の節句とは、苦  
がなくなるといふことである。栗はイガの剛  
いものである。そのイガをとれば、中に皮が  
あり、又、渋がある。その皮なり渋をとれば、  
まことに味のよい実が出て来るで。人間も、  
理を聞いて、イガや渋をとったら、心にうま  
い味わいを持つようになるのやで。」  
と、お聞かせ下された。

**心にうまい味わいをもつ**

イガや渋のような個人の癖、性分は前生前々生から  
積み重ねてきたほこりの心であります。親神様がお望  
み下さる「互いたてあいたすけあえる陽気な心」に切  
り替えることが、大事であり、そのことが結果的に心  
温かい味のある人間になります。悪いんねんを取り去  
れば、心にうまい味わいを持つようになるとはなんと  
心強く、ありがたいお言葉でしょう。

癖、性分を見つめ直す方法として「八つのほこり」  
を示されています。日々到我が心を反省し、絶えず胸  
の掃除につとめることが大切だと思わせて頂きます。



## 拝み合う世の中

育てても育て。綺麗にすれば綺麗になる。そらどうしたらいかん、こうしたらいかん、よう聞き分け。仕舞にいかんようになる。互い／＼礼言うように成りてみよ。不足ある。丹精する。不足ありて丹精と言えるか。日々丹精という理に成りてくれ。

日々皆礼言わにやならん。 (明治32・10・1)

きちようめんな人は、他人のアラが見えやすいので、どうしたらいかん、こうしたらいかんと、つい指図したくなり、思いどおりにならないと不足の心を起こしがちです。人の悪いところを直そうとするよりも、良いところを見つけて、それを伸ばそうとする。＂良いところ取り＂の心で相手を育てようと思いがける必要があるのでしょうか。

たとえ相手が変わらなくても、こちらの心を切り替えれば、喜びと感謝の心で相手に接することができますようになります。

お道の信仰は、お礼に始まり、お礼に終わる、とも言われます。朝夕のおつとめも、月次祭も、神様への感謝のお礼の心でつとめます。神様に対してだけでなく、人にも常にお礼の気持ちを持って接すればいいのでしょうか。

袖すり合うも他生の縁、と言いますが、お道では、前生のいんねんを寄せて守護して下さる、と教えられます。どんな嫌な人でも、自分のいんねんを映し出してくれる恩人なので、神様が引き合わせて下さったのだ、と考えれば、喜べるはずなのです。

おぢばは、かんろだいを中心に、四方八方から拝み合うようになっていきます。世界中の人々がみな、互いに拝み合うような世の中にするのが、陽気ぐらしへの世界のふしんなのですね。

渡部与次郎先生著

「おさしづに学ぶ」より抜粋



和名クリの語源は諸説あり、食料として古くから栽培され、果実が黒褐色になるので「黒実（くろみ）」になり、これが転じて「クリ」と呼ばれるようになったという説、樹皮や殻が栗色というところから樹名になったという説、クリとはそもそも石という意味で、実の硬い殻をクリと呼んだという説などがある。野生種はヤマグリ（山栗）と呼ばれ、果実が小さいことからシバグリ（柴栗）とも呼ばれる。中国植物名は栗（りつ）。中国のシバグリが、甘栗（天津甘栗）として市販される栗である。英語名のチェストナッツ（Chestnut）は、いがの中の果実がいくつかに分かれている様子から、部屋の意味の Chest から命名されている。

# 栗



秋が深まるにつれて、夜が長く感じられたり、コロナ禍で自宅で過ごすことが増えています。だからこそ、丁寧な一日を過ごしましょう。丁寧な今日を送ることで豊かな明日に繋がるはずです。

## 丁寧に作る栗の渋皮煮

### 材料(500g)

栗	500g
熱湯	適量

### アク抜き1回目

水（ゆで用）	適量
食品用重曹（ゆで用）	小さじ1.5

### アク抜き2回目

水（ゆで用）	適量
食品用重曹（ゆで用）	小さじ1

### アク抜き3回目

水（ゆで用）	適量
食品用重曹（ゆで用）	小さじ1

### 仕上げ用

水（ゆで用）	適量
冷水	適量
砂糖	230g
ブランデー	大さじ1

### 作り方

1. 耐熱ポウルに栗、熱湯を入れ粗熱が取れるまで30分ほど浸します。
2. 水気を切り、渋皮に傷が付かないように鬼皮をむき、表面の筋を竹串で取り除きます。
3. あく抜きをします。鍋に2、栗がかぶる程度の水、食品用重曹を入れ中火にかけアクを取りながら10分ほどゆでます。火から下ろし、透明になるまで流水で流します。
4. 3の作業をさらに2回繰り返します。
5. 仕上げをします。水が透明になったら、強火に熱して沸騰直前で弱火にし10分ほどゆで、透明になるまで流水で流します。
6. 5の作業をさらに1回繰り返す。
7. 水切りをし、ひたひたになる程度の水、砂糖を加え中火にかけ沸騰直前で弱火にし20分ほど煮込みます。
8. 火から下ろし、ブランデーを加えそのまま粗熱を取って出来上がりです。



# 十一月例会案内

日時 十一月五日 (金) 午前九時  
場所 旭日大教会  
内容 教祖祭  
よろづよ八首

(御本部へ移動)

本部西礼拝場にてお願いごとめ

本部ひのきしん (草引き)

弁当配布



※社会状況および天候により変更になる場合がございます。

※お弁当は二十四日までに直属教会を通してお申し込み下さい。

## 女子青年例会案内

日時 十月三十一日 (日) 午前八時三十分

大教会ロビー集合

内容 婦人会総会ひのきしん



## 十一月例会役割

扨者	南本	サツエ	藤井	綾子
賛者	森下	由紀子	松田	よし子
指図方	松田	和代		

※十一月の鳴物当番はありません。

婦人会旭日支部第87回総会を来たる10月31日に予定しております。今般の社会状況を鑑みて、委員長のみでつとめさせていただきます。どうぞご了承いただけますようお願いいたします。

## 今月の表紙より

運動会。運動をすることは継続する心と身体を養うことにもつながります。また、競い合うことで様々な経験を積むこともできます。語源だけで言えば運動の「運」はめぐり合わせを運ぶという意味があります。このコロナ禍も成ってくることとし、その中でも私たちは信仰するものとしてこどもたちに受け取り上手になってもらえるよう、喜ばせていきましょう。

イガや硬い殻をとって、  
味わいのある  
心になりたいですね



発行所  
天理市田井庄町一二八

発行者  
岡本道子

発行日  
令和三年十月五日